

BOOK TALK

編集・発行 海南高校図書部

第25号

2016.01.22

中村と「本」との出会い

今回のBook Talkを担当させていただきます、理科の中村です。まず最初に皆さんが「本」を始めて読んだのはいくつ位だったか覚えていますか？僕の場合は幼稚園の年少の頃でした。その頃、僕は千葉県に住んでいて、アパートの近くの幼稚園に通っていました。そして、幼稚園までの道端で出会う色々な生物をよく眺めてたそうです。数センチしかない小さな蝶、その蝶が集まっている花、アパートの木の下に生える白いキノコなど、今でもしっかり思い出せる生き物もたくさんいます。そして、そんな生き物たちとの出会いが僕の「本」との出会いにつながっていきました。はっきり覚えているのはアパートにいたジョウログモとの出会いです。その時、「なんでおしりから糸が出てくるの？」と母に問いかけたそうです。そして、母も説明できませんでした・・・そして、母は僕を図書館へと連れて行き、クモについての本を見せてくれました。そこで「糸を出すイボ」が存在するのを知りました。その後も「青い小さな蝶（ルリシジミ）」、「黄色い小さな蝶（ベニシジミ）」、「スズメっぽい別の鳥（モズ）」など出会う生き物についてなんと言う名前なのか？どんな特徴があるのか？と興味を持つたびに図書館へという習慣が出来ていきました。そして、それに伴い普段読む絵本も動物が登場するものが増えていきました。



今でも家の残っている
絵本①

今でも家の残っている
絵本②



今でも家の残っている
絵本②

和歌山に戻ってきて

前述のように千葉県で生き物に囲まれた生活を送っていた中村は幼稚園の年長に上がるタイミングで和歌山県へと戻って（引っ越して）来ました。そして最初に感じたことは「今までよく見ていた生き物が見つからない」ことでした。特にその頃好きだった昆虫についてはしばらく時間を見つけて探しまわった記憶があります。一方で、千葉では出会えなかった本物のカナヘビとの出会いもありました。そして、小学生となり行動範囲が少し広がったことで、また新たな生き物との出会いがあり、再びそれらの生き物を本で調べる作業が始まりました。また、小学生になり学校へ通い始めたことで「図書室」と「図書係」といった新しい本との関わりが出来ました。ちなみに「生き物係」も存在したのですが哺乳類や鳥類にあまり興味が無かったせいもあり周囲の友人に「なぜ生き物係じゃないの？」と突っ込まれながらも図書係を選んだのを覚えています。そして、図書室に通うようになり様々な本に触れる機会が増えました。しかし、読む本はそれまでと変わ



中村が通っていた頃の笠田小学校。
現在は新しい校舎になっている。



科学のアルバム
シリーズ

らず「生き物の図鑑」、「生き物の生態についての本」、「生き物の体のつくりについての本」と生き物関係ばかり読んでいました。特に「科学のアルバムシリーズ」は種類も揃っていたこともあってかなり印象に残っています。そして、この偏った読書の趣味が僕にとって大きな悩みの原因となりました

「国語」のテストで大苦戦！！

「国語」のテストで大苦戦！！

このような本で色々調べる癖が出来ている僕を見て周囲の大人はきっと国語の成績もいいたろうと思っていたようです。しかし、当の本人は苦手な教科はと聞かれると小学校時代は「国語」、中学校以降は「英語と国語」とすぐに答えられるくらいテストの点は取れなかったです。今になって考えると、そこに書かれている情報を得るために読んでいただけで、小説などの物語にはほとんど興味が無かったせいだと思います。もちろん「文章を読む事」はずっと続けていましたが、その文章も「ファーブル昆虫記」、「シートン動物記」といった本が中心となり、それまでの生き物に対する知識もあいまってあまり文章から想像を膨らませるといった体験が少なかった事が原因の一つだと思います。そのような状況が高校2年まで続きました。



小説を読み始めたきっかけ

そんななかで僕が物語を読み始めるきっかけになった出来事がありました。それは高校時代の友人から面白いよとある小説を薦められたことがきっかけでした。その小説を最後まで読み終わったとき、本を読んでいて初めて「あらかじめ張られていた伏線」や「登場人物の状況を読み取る事」に面白いと感じた事を覚えています。それをきっかけにその友人がたくさん持っていた所謂ライトノベルを借りて読み始めるようになりました。



友達に借りた
ライトノベル

その一方で高校時代は自分の勉強スタイルがはっきりと分かっていたこともあり、放課後の大部分はクラブ活動と英語の予習で消えてしまっていました。そのため今までの人生の中で最も本を読まなかった期間でもありました。

その後...

そんなこんなで中村も3年間の高校生活を終え卒業したのですが、大学生になっても本との関わりは高校時代とあまり変化しませんでした。ただ1つ、大学生になると自分で資料を探し、その中から必要な情報を集める機会が増えました。もちろん大学には図書館があるのでそこにいけば様々な本、論文、パソコンなどが揃っています。それらを選び好みせず「とりあえず使ってみよう（読んでみよう）」と触ることが出来た事は、高校までの本との関わりがあったおかげだと感じます。けっきょく僕自身、それまではいわゆる「硬い本」はあまり読めず、その時々「好みの本」を読んでいただけでした。それでも「本」を手にとっていたことが大学に入ってから、そして今の生活に大きな影響を与えてくれているように感じています。皆さんも時間を見つけて「自分に合った本」を探してみてください。